由利組合総合病院広報

23

Yuri's Talk

Dec 2013 Vol.23

由友（ゆう ゆう）

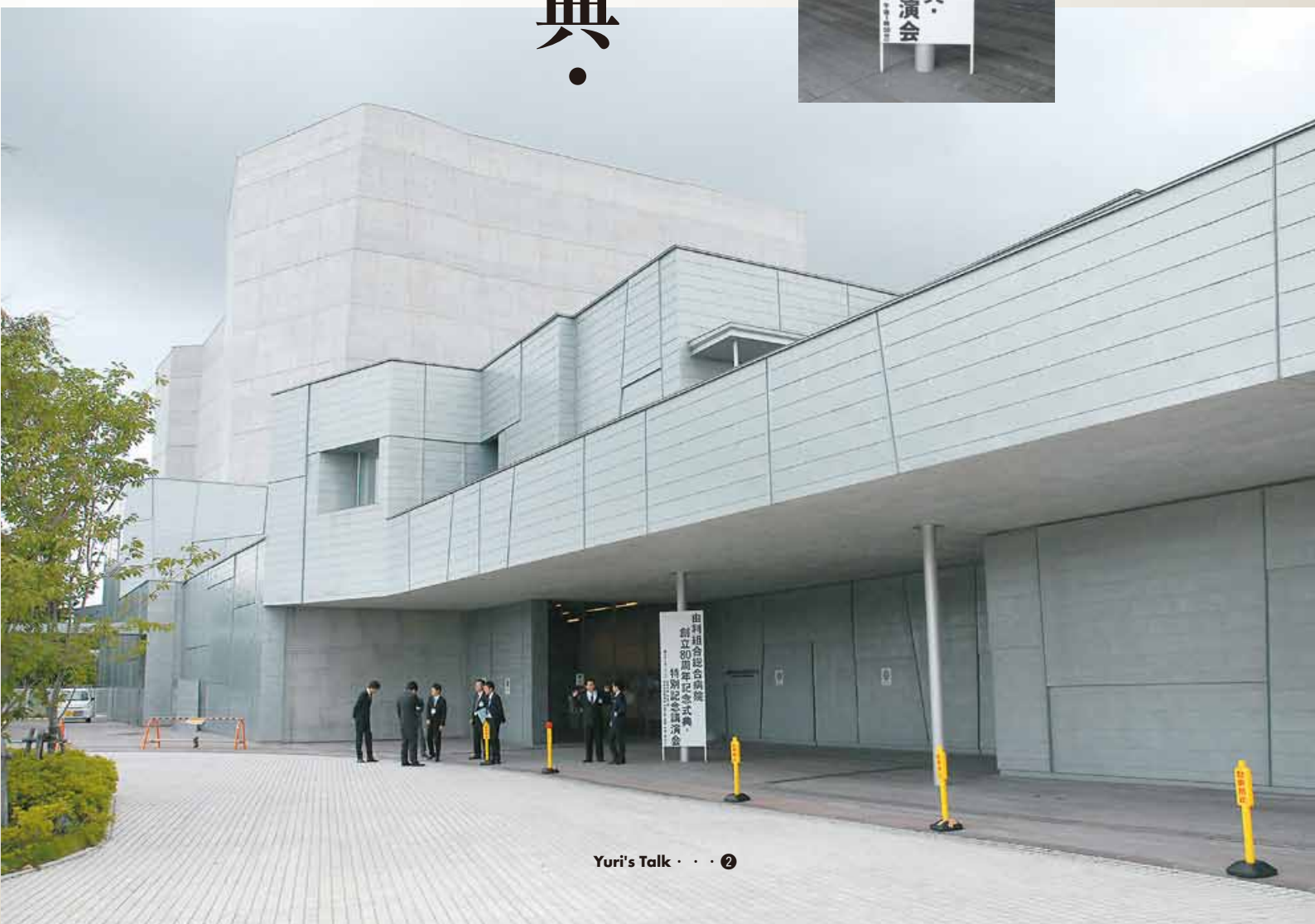
「原 石鼎の句」
佐々木 幸子 作

題字 高野一彦氏

ホームページアドレス www.yuri-hospital.honjo.akita.jp/

由利組合総合病院
創立80周年記念式典・特別記念講演会

院長
菊地 顕次



平成25年9月1日㈰午後1時から由利本荘市文化交流館「カダーレ」において、由利組合総合病院創立80周年記念式典が開催されましたので、その概要をご報告します。

昭和8年当時、困窮する農民たちが互いに少額の出資金を積み立てて有限責任由利医療購買利用組合を設立し、併せて由利医療組合病院を開院して以来、平成25年8月17日をもって創立80周年を迎えるにいたりました。昭和8年に先見の明をもって病院創立に専心・努力した故加藤伝一郎組合長をはじめ多くの役職員・組合員の方々、そしてその後の歴史の糸を営々と紡いできた数多くの病院職員の方々の思いを深く感じ取り、また、この地域の皆さま方によって80年をかけて育んでいただいたことへの深い感謝の気持ちから、創立80周年記念式典を開催することにいたしました。おかげさまで、滞りなく盛会裏に式典を終えることができましたが、式典にご参加いただいた皆さま、ご協力をいただいた関係者の皆さま、そして併せてこれまで永年にわたって由利組合総合病院に寄せられた数多くのご厚情に対しまして、紙上をもって厚くお礼申し上げる次第でございます。

［記念式典次第］

1、開　会

当日は、由利本荘医師会会員、秋田しんせい農協理事、由友会会員、および当院職員など、総勢約２００名が出席して、当院副院長の朝倉健一先生の司会で午後１時から記念式典が始められました。

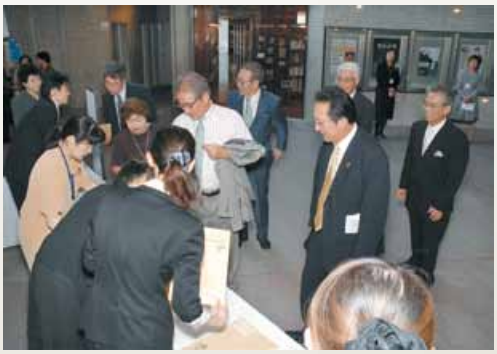
2、式　辞

はじめに私が式辞の中で、前述したような病院設立の経緯と時代背景、そしてその後に辿った80年におよぶ病院の長い歴史に触れて、地域医療に邁進した諸先輩のたゆまぬ努力により今日の中核病院へと大きく発展してきたことをまずお話し申し上げました。そして最後に、８００余名の現職員が等しく心を一つに初心に立ち返って、地域から一層の信頼を受ける病院となれるように、今後ともさらなる努力と研鑽を続けてまいる所存であることを申し述べました。

3、来賓祝辞

はじめに、秋田県厚生連経営管理委員会会長の木村一男様からご祝辞を頂戴しました。お話の中で、百田尚樹の「海賊とよばれた男」という小説を引用され、主人公が私利私欲なく信念や熱情のもと、数々の苦難をはねのけていく過程で、周囲の人々の心が一つになり、想像を超えた大きな力が生み出されていくことが述べられましたが、これが当院も含めて秋田県における医療組合運動を先導した先人たちの強い信念と熱情に相通じるものがある、という内容がとりわけ印象的でした。

次いで由利本荘市長の長谷部誠様、並びににかほ市長の横山忠長様のお二人から、地元地方自治体を代表してご祝辞を賜りました。当院に期待する地域医療への熱い思いがひしひしと伝わり、身の引き締まる思いでした。



4、祝電披露

田口國芳事務長から祝電の披露がありました。全国厚生連経営管理委員会会長の奥野岩雄様、衆議院議員の村岡敏英様はじめ、全国の数多くの方々から祝電を頂戴いたしました。紙上をお借りしてあらためて深謝いたします。

5、閉　会

以上のように朝倉健一先生の司会で式典は円滑に進行し、最後に閉会のことばで滞りなく式典が終了いたしました。

［特別記念講演会］

引き続いて一般の聴講者約２００名の方々の入場を待って、午後２時から次の演題でお二人の講師の先生からご講演を賜りました。

1、「地域医療の今後」　講師　東北大学総長　里見　進先生

2、「赤芽球癆をめぐって」　講師　秋田大学医学部長　澤田賢一先生

第一席は、当地における医療体制を考える上で大変示唆に富み、時宜を得たすばらしいご講演でした。また、第二席の講演も澤田教授のライフワークである「赤芽球癆」の研究を通して、当院にかつて勤務された先生方の血液学の分野でのご活躍を詳細に紹介していただきました。併せて、当院のような県内の地域中核病院と秋田大学との密接な連携関係が今後はますます重要になるとのお言葉をいただき、感激の極みでした。

以上のように、多数の方々のご参加をいただき、今回のこの記念式典並びに記念講演会が記憶に残る大変有意義なものとなりましたことを、この紙面をお借りして厚く感謝申し上げたいと存じます。

病院機能評価
受審し、合格

医療機能評価の原点は、今の病院が無駄なく有効に機能しているかを第三者から評価してもらい、改善事項を指摘してもらうことにあります。今までの三回の評価はいずれもすんなり通ってきたわけではなく、難しい指摘項目もありました。例えば、医療スタッフの充実、特に医師や看護師の補充は喫緊の課題ですが、現状ではなんともならないのが実情です。

今回は、4回目ということでコンサルタントと相談しながら、準備を1年前からスタートしました。院内にワーキンググループを作り、頻回に会を重ねて進めていきました。

まずは、各部門の自己評価を行いつつ、改善すべき点を見つけていきました。前回の審査で指摘された事項も参考にして、話し合いをしながら、準備を進めていきました。

そして、コンサルタントによる模擬審査も行い、書類審査、訪問審査も本番同様に行われ、いろいろ指摘事項を受けてさらなる改善に取り組みました。そのせいもあってか、本番の審査では、予想以上の指摘事項はなかったという印象でした。

いよいよ訪問審査当日です。サーベイヤーが9人到着し、審査が始まりました。審査委員長の挨拶に始まって各人の自己紹介に続き、当院の方もあいさつと自己紹介を行いました。初日は、提出された各種書類の審査と面接です。想定された質問以外で答えに窮する場面も見られましたが、おおむね想定内でした。

2日目、3日目は部署訪問です。あらかじめ提出された自己採点表をもとに、厳しい目で審査が行われました。特に、薬剤科では念入りに調査が行われました。なお、夜には正面ホールでバイオリンとピアノのコンサートが行われ、審査員にひとときの安らぎを与えてくれました。

最終日には、総評があり、合格基準を満たしていない箇所の指摘がありました。しかし、概ね、印象は良く、これかも頑張ってくださいという激励で審査は終了となりました。

その後、3箇所の改善指摘事項があ

認　定　証
Certificate of Accreditation

認定第GB13-4号
Accreditation Number

審査体制区分：4
(ver.6.0)
Assessment system division 4

病院名 秋田県厚生農業協同組合連合会 由利組合総合病院 殿
Hospital Name Yuri Kumiai General Hospital

貴病院が日本医療機能評価機構の定める認定基準を達成していることを証する
This is to certify that the above hospital has demonstrated satisfactory compliance with the applicable JCQHC accreditation standards.

認定期間：2012年11月25日～2017年11月25日
November 25,2012 November 25,2017

発行日：2013年3月1日
Issue Date : March 1,2013

公益財団法人 日本医療機能評価機構 代表理事 理事長 井原 哲夫
Japan Council for Quality Health Care Chairman of the Board Tetsuo Ihara

りましたが、書類のみの審査で無事合格となりました。今回の審査は、今までより早めの準備とコンサルタントの協力を得て、比較的スムーズに行われたと思います。全職員の受審に対する意識付けが高まり、さらに病院を良いものにしようとする雰囲気が出てきたことはその成果と言って良いでしょう。また、5年後に再受審するときには、胸を張って誇れる病院であることを期待したいと思います。

三浦事務長の思い出

この春に定年退職して早いもので半年が経過しました。退職後はゆっくり温泉巡りや平日ゴルフ、蕎麦打ちにも挑戦しようなどと思い描いていましたが、勧められるままに安直な計画を先に延ばし、新たな環境の下で充実した日々を送っています。今回このような機会を頂き、由利組合総合病院で過ごした年月を振り返ってみました。

昭和50年4月に厚生連に入職し、本所を経て昭和57年8月に施設営繕係長として赴任したのが病院勤務のスタートでした。当時の事務室は旧館中庭のプレハブ棟で、夏の猛暑は氷柱と扇風機でしのぎ、冬は石油ストーブと厚手のタイツで我慢するしかないような、働きやすい環境には程遠い状況でした。その反面、職場はアットホームな和気藹々とした雰囲気で、本当に昭和の良き時代そのものでした。上司、同僚と毎日のように近くの居酒屋に集い、仕事以外でも多くの事を学ばせて頂きました。旧病院時代は、事務部門に限らず病院全体の交流が盛んで、運動会や野球・ソフトボール、職員旅行も参加者が多く調整に難儀するほどでしたし、市民ボート大会も職場対抗みたいに参加クルーが多かったように

記憶しています。全てが反省会付きでしたので、本業以外でも地域に対しての貢献度が高かったと思われます。

事務長としての二期6年間は、財務改善計画や医師確保対策、ＪＡや行政との共同事業への取組等、難しい対応を迫られ思い悩むこともありましたが、色んな場面で院長先生を始め職員の皆様に温かく支えられ、お蔭様で滞ることなく繋ぐことができたように思います。

あらためて振り返り、生まれ育った地元の由利組合総合病院で楽しい思い出を胸いっぱいに、38年間の職務人生を締めくくることができて最高に幸せでした。これまで、寛大な心で育てて下さった諸先輩、時として我儘な言動を受け入れてくれた職員の皆様に心から感謝申し上げます。長い間お世話になりありがとうございました。

病院祭 2012

昨年は11月第三土曜日に、病院祭が開かれました。東日本大震災からの復興が進む中、祭りの本来の姿である『明るく楽しく元気で』をスローガンにして出演者もスタッフも一体となってがんばりました。各部会に分かれて、出演者との交渉やバザーの品揃え、そして写真や作品の展示など、前日夜遅くまで準備して当日を迎えました。まず、餅つきで始まり、つきたての餅は会場の皆さんに振舞われました。続く演奏では、威勢の良い石沢太鼓で始まり、JAしんせい女性部の皆さんの歌と踊り、鶴舞小学校、仁賀保中学校、尾崎小学校、新山小学校そして北中学校、東中学校の演奏と盛りだくさんでした。子供や孫の姿を一目みようと多くの皆さんが駆けつけてくれました。同時に救急隊による救急車内の公開と救急蘇生実演コーナー、職員によるポップコーンや風船のサービスコーナー、お茶コーナー、チャリティバザー、JA物産即売、介護用品、健康相談コーナーなども例年以上の中身の濃い内容でした。午前の最後は、看護師の皆さんによる菖蒲音頭の踊りで休憩に入りました。

午後は、JAXAの主任開発員 萩原明早香氏による『はやぶさの軌跡』の講演会があり、多くの皆さんが最後まで、聞き入っていました。そして、最後は、仁賀保高校吹奏楽部の皆さんの力強い演奏で病院祭は幕を閉じました。多くの方々の協力を得て、しばしの間、士気が鼓舞されたことでしょう。

明るく楽しく元気で

JA秋田しんせい女性部コーラス

石沢太鼓

演奏会

演奏会

演奏会

健康相談コーナー

押し花

救急コーナー「AED体験」

風船のサービス

農協特産物即売コーナー

JAXA主任開発員
萩原明早香氏

記念講演

研修医紹介

研修医の皆さんは2年目を迎え、1年目とは違って、かなりの自信を持って診療に従事するようになりました。顔にはおどおどした感じはすっかり影を潜めています。また、カンファランスでは、担当した症例のプレゼンテーションを卒なくこなしていました。さらに、病院祭では餅つきをやりましたが、慣れない手つきでがんばっていました。そして、病院の忘年会でも日頃の忙しさを忘れて楽しんでいました。

3年目も当院での研修を希望されており、来年度の新人とともに切磋琢磨しながら、充実した研修が続けられることを期待しています。

秋田大学 地域医療実習

9月の後半、秋田大学から地域医療実習ということで9名の5年生の皆さんが当院を訪れてくれました。2年後には研修医となることを想定して、病院の環境や先輩たちの活躍を身をもって感じてくれたようです。救急当直の経験、症例発表や病理検討会、そして救急隊実習、救急オリエンテーションの参加、検診での血圧測定、往診や訪問看護に同行したりと、忙しい毎日だったことでしょう。また、夜には先輩の研修医たちと酒を交えていろんな話を聞けたことと思います。この実習の経験をもとに、卒業後にマッチングを通して研修医として着任してくれることを切に願っています。

ふれあい　1

バイオリンとピアノコンサート

H24.10.25

医療機能評価受審の当日夜、正面ホールにおいて、松尾沙樹さんと高橋ケイさんによるコンサートが行われました。透き通った音色のバイオリンとピアノの絶妙なコンビネーションは、多くの聴衆を魅了してくれました。

ふれあい　2

クリスマスコンサート

H24.12.19

12月中旬に恒例となったクリスマスコンサートが正面ホールで行われました。本荘高校吹奏楽部の多数の生徒の皆さんが大変、息の合った演奏を楽しませてくれました。患者さんにとっては、素晴らしいクリスマスプレゼントになったことでしょう。

ふれあい　3

退職者の皆様を送る会

H25.3.28

長年、当院で勤務された方々の送別会が開かれました。皆さんの出席というわけにはいきませんでしたが、出席された方々の思い出話で最後まで名残惜しく宴は続きました。

ふれあい　4

看護の日

H25.5.16

5月14日～16日の3日間、看護週間に合わせ、看護師自治会（白鳩会）により正面玄関脇の特設コーナーで看護師が血圧測定を行いながら健康相談に応じました。また来院者に花の種や風船、ボールペン等をプレゼントして喜んでもらいました。

ふれあい　5

高校生インターンシップ

H25.8.2

8月2日本荘高校、由利高校、平成高校の2年生対象のインターンシップ希望者5名を受け入れました。院内見学や看護体験をとおし、看護師という仕事の大変さが解った半面、やりがいのある職業であり看護師になりたいという目標が更に強くなった事を話してくれました。

ふれあい　6

院内保育所夏祭り

H25.8.2

院内保育所の夏祭りが講堂で行われました。子供たちが喜びそうな出し物が準備され、ひとときの祭りの気分を堪能していました。

ふれあい　8

看護学生インターンシップ　H25.8.23

8月23日県内の看護学生9名が参加しました。病院紹介、看護部紹介、院内見学と病棟での看護体験を行い、終了後の交流会では看護に対する学びが深められたと感想がありました。また院内保育所があることで安心して仕事と子育てが出来る良い環境であるとの意見がありました。

ふれあい　9

市民ボート大会　H25.9.8

私たちが6月から9月にかけて練習するボートは、5人1組で乗るナックルフォアという艇です。9月の子吉川ボート大会では500mを早くて2分、遅くても3分台で漕ぐのですが、はっきり言って「きつい」、まして子吉川の上流に向かって漕ぐのですからこれまた「しんどい」、途中で何度漕ぐのをやめようと思ったことか。こんな思いをしていながらもついつい毎年子吉川に来てはボートを漕いでいる。それはやはり「楽しい」から、ボートに乗ってゆらゆらと漂っていると、嫌なことも忘れます。大会では勝った時のうれしさや、負けた時のくやしさを味わうことが出来これがとてもやみつきになる。

皆さんも是非一緒に漕いでみませんか?興味のある方は見学だけでも来てみてください。お待ちしております!

手術棟　工藤 智洋

ふれあい　7

中学生ボランティア

今年も、長期休暇には、市内の中学生の皆さんがボランティアとして大勢来てくれました。忙しい病院の中で、短時間でしたが一緒に働いたことが将来の構想の参考になってくれれば幸いです。当院の医師や看護師などのスタッフになってくれることを期待しています。

ふれあいコーナー

地域と、人と。

トピックス

TOPICS 話題いろいろ

DECEMBER 2013

TOPICS 1

H24.12.18

永年勤続表彰

20年以上勤められた方々への表彰が行われました。若い人たちへの模範となり、適切な指導によって病院の発展に貢献されたことに感謝いたします。これからも引き続きがんばっていただくことを期待しています。

TOPICS 2

H24.12.26

院内学術発表会

各部門の成果を発表する学術発表会が行われました。各部門を代表するだけあって、素晴らしい内容の発表が相次ぎました。質問もあり、他の部門にとっても、新たな認識をする機会になったと思います。

TOPICS 3

H24.
12.28

病院忘年会

一年の締めくくりとして、多くの職員が参加して盛大に忘年会が行われました。恒例の出し物では、今年の流行を取り入れたものがみられ、会場の笑いや拍手を誘っていました。時は早くすぎ、あっという間にお開きとなりました。

TOPICS 4

H25.
1.30

インフルエンザ・ノロウイルスセミナー

今回は、インフルエンザノロウイルスセミナーを開催しました。これまでは、インフルエンザ単独でやっていましたが、ほぼ同時期に流行するノロウイルスについても同時開催としました。予防法はほとんど同じであり、手洗い、うがい、マスク着用になります。

TOPICS 5

H25.
3.6

糸井先生・後藤田先生来院

東京医科大学の両先生が来院されました。当院消化器科の診療に適切な助言をいただいております。高度なテクニックを早くマスターすべく、皆、真剣な眼差しで見ていました。

TOPICS 6

H25. 3.23

市民公開セミナー

当院は地域がん診療連携拠点病院となっており、その啓蒙活動の一環として、市民公開セミナーが行われました。当院の橋本副院長、戸沢科長、放射線科の小松技師長、緩和ケア認定看護師、そして秋田大学の南谷先生、齋藤元先生のわかりやすい講演があり、多くの市民の皆さんに理解してもらえたと思います。

TOPICS 7

H25. 3.29

臨床研修修了証授与式

今年の3月、新医師臨床研修制度の8期生1名が無事に初期研修を修了しました。数多くの症例を経験し、いろいろと悩み勉強したことが大きな自信につながったことと思います。これから、専門的研修を積んで、また当院の中核医師として戻って働いてくれることを期待しています。

TOPICS 8

H25. 4.2

新入職員オリエンテーション

4月1日に辞令を受けてから、一週間の新入職員のオリエンテーションが講堂を使って行われました。院長、事務長、看護部長の挨拶の後、医療安全、感染対策など医療関係者として必要な項目について講義を受けてもらいました。皆は、一言も聞きもらすまいと熱心に聞き入っていました。

TOPICS 9

H25.
4.3

新入職員歓迎会

講堂において、病院全体で採用された新人職員の歓迎会が行われました。不安と希望の交錯する中で、代表の人がこれからの抱負を述べました。病院の発展は皆さんの若い力にかかっていますので、初心を忘れずがんばってください。

TOPICS 10

H25.
5.1

鳥インフルエンザセミナー

2009年の新型インフルエンザの大流行の記憶がまだ冷めやらぬ中、鳥インフルエンザセミナーを開催しました。これは、H7N9型の鳥インフルエンザが外国で流行したことによるものです。新型インフルエンザへの移行が懸念される中、最新の情報を提供しました。保健所からはその対応についても言及がありました。

TOPICS 11

H25.
5.15

医療安全研修会

今回は、喫煙の害について、秋田大学の塩谷先生に講演をしていただきました。喫煙による本人の肺がんなどへの罹患ばかりでなく、受動喫煙による弊害についてもわかりやすく話してもらいました。当院でも敷地内禁煙になりましたので、その徹底をこれから図っていきます。

TOPICS 12

H25. 5.30

早期診断セミナー

当地区では、消化器系の癌患者さんが多く、その診断と治療にあたっては細心の注意を払っています。このセミナーでは、当院の緩和ケア認定看護師、がん相談支援センター看護師、保健福祉活動室師長、そして橋本副院長から多方面にわたって講演をしていただきました。今後も定期的に開催する予定です。

TOPICS 13

H25. 7.31

医療従事者合同カンファレンス

今回は、中通総合病院の院長である鈴木先生に、肝臓がんの放射線治療について講演をしていただきました。当院では、肝臓に関する専門家がおらず、対応が遅れている疾患ですが、最先端の治療についてわかりやすく話してもらいました。

トピックス
TOPICS 話題いろいろ
DECEMBER 2013

TOPICS 14

H25. 8.6

解剖体慰霊祭

8月始めに、解剖させていただいた方々の慰霊祭が行われました。解剖は、医学の基本であり、不幸にして亡くなられた方の原因を追求するために行われます。最近は、画像所見の発達などによって解剖の意義を疑問視する向きもありますが、生前の診断の正確さが厳しく問われる場面でもあります。これからの医学の発展に必ずや貢献されるものと信じています。

TOPICS 15

H25. 8.27

防災・消火訓練

東日本大震災の影響で、防災に対する意識が向上しています。当院は災害時には拠点病院として活動の中心になるため、定期的な訓練は欠かせません。いかに早く、情報を的確に伝達し患者さんを安全な場所へ避難させるかが重要です。手順に従って迅速に行動していましたが、また来ることが予想されている大地震の際に訓練の成果が十分に発揮されることを期待します。

TOPICS 16

H25. 9.17 ～18

救急オリエンテーション

9月に救急オリエンテーションが講堂で2日間開かれました。医師のみならず、新人職員の救急に対する啓蒙、教育のために担当科の医師および救急隊、救急室から発表してもらいました。今回は、救急場面において特に注意すべき点にしぼって話してもらいました。東京医大の糸井先生には、膵臓疾患について講演していただきました。

働きがいのある職場環境づくりを目指して

新事務長挨拶

事務長
田口 國芳

4月の人事異動により赴任し早半年が過ぎました。数えてみますと今回の異動は7回目となり6年ぶりに地元に戻りましたが、その6年間に当院は施設面で院内保育所が作られ、医師・看護師をはじめ職員が安心して出産・育児ができるような環境作りがなされ、また、医療と福祉の一体的なサービスを地域の方に提供することを目的に併設型の短期入所介護事業所が作られております。私の現状としては暗中模索の毎日を送っている状況です。当院は秋田県厚生連で一番の許可病床数を持ち外来利用患者数も一番多く職責の重さを感じずにはおられません。幸いにも上半期を終えた時点で計画額、前年額を上回る黒字を計上することができております。これは全職員の努力による成果と思っております。

9月1日開催しました創立80周年記念式典並びに特別記念講演会も職員の方々の協力のもと、一般の方を含め約４００人の参加を得て盛会裏に終了することができました。また、11月には病院祭が予定されており80年の節目として、地域の方々に当院をもっと知って頂く場としての良い機会と思っております。

秋田県と同様由利本荘・にかほ医療圏においても少子化により人口が毎年1％前後減少しており、超高齢化は進む一方です。また、医療を取り巻く環境は、新臨床研修医制度以降病院勤務医の地域偏在により当院でも医師不足が深刻になっております。このような状況の中、平成26年度診療報酬改定が行われます。1月頃には決まるとは思いますが、病床機能の分化、外科医療の機能分化と連携や在宅医療の充実が進むものと思われます。こうした中で経営の健全化を前提に地域から一層信頼される病院づくりのために、地域住民の方々に安全で安心な質の高い医療を提供するとともに病院職員のモチベーションを上げられるよう働きやすい職場、職員が魅力を感じる病院の環境作りに努めて参りたいと思っておりますので今後とも宜しくお願いいたします。

健康増進法第25条の定めにより、受動喫煙防止のため、院内及び敷地内での喫煙を禁止します。

病院長

病院敷地内全面禁煙について

当院では、平成25年11月1日より「病院敷地内全面禁煙」を実施しています。これまでの「館内禁煙」では、病院の建物の外での喫煙は可能としておりましたが、「敷地内禁煙」は、病院敷地内の全てを禁煙エリアとするものです。

平成15年5月に施行された「健康増進法」では、学校や病院、官公庁施設、飲食店など、多数の人が利用する施設においては、その施設を利用する者の「受動喫煙を防止するために必要な措置を講じなければならないことが規定されています。とりわけ病院は、病気をもつ患者様が診察や治療、相談のために訪れたり、入院したりする施設です。そして、より安全・安心で快適な療養環境を提供し、地域住民のいのちと健康を守るという重要な使命を担っています。当院はこれまで館内禁煙を実施し、受動喫煙の防止に努めてきましたが、地域がん診療連携拠点病院としての役割を果たし、また、日本病院機能評価機構認定病院としてふさわしい良好な療養環境を患者様に提供するため、これまで以上に積極的に喫煙対策に取り組むこととし、「病院敷地内全面禁煙」を実施することといたしました。

たばこの煙には分かっているだけで約4000種類の化学物質、そのうちニコチン、一酸化炭素、タール、ホルムアルデヒド等の約200種類の有害物質、さらに約70種類の発がん性物質が含まれていることが確認されています。喫煙によって引き起こされる様々な疾患のことを「たばこ病」といいますが、たばこ病は全身病とも呼ばれるように、様々な疾患が複合し、より重大なダメージを身体にもたらし寿命を短縮させます。同じ疾患でも喫煙者は非喫煙者に比べ、病後の回復力に大きな差が生まれ、死亡率が高くなることも明らかになっています。また、様々な研究により、主流煙と比較して副流煙に含まれる有害物質の方が、何倍も、何十倍も多いことも明らかになっています。受動喫煙とは、喫煙者の吐き出した煙やたばこの先端から立ち上る副流煙を吸い込むことをいいますが、受動喫煙により、肺がんや心筋梗塞、乳がんなどのリスクが高まるのです。たばこは危険なのです。

医療機関は、患者様のいのちと健康を守るという使命を担っています。喫煙による健康障害や受動喫煙による健康被害が明らかになっている以上、禁煙対策に率先的に取り組むことが医療機関に求められる役割であると考えています。

こんにちは！ 地域医療連携室の高橋です。

地域医療連携室では、平成13年4月の開設以来、地域医療機関との連携業務や広報誌の発行、院内研修会のご案内等の広報業務を行ってきました。平成24年4月には、「入院・退院支援センター」が併設され、在宅から入院、入院から退院までのサポートを通して診療や看護に関して気軽に訪れることのできる窓口として対応してきました。

また、これまでは事務2名の体制でしたが、今年10月に高橋（看護師）が加わり新たな体制で地域医療連携室を充実させていくことになりました。病棟から異動になって3日で熱を出すなど連携の現状に戸惑いながら悪戦苦闘している毎日ですが、看護師としてのキャリアを活かせるように日々研鑽していきたいと思います。

また、今後の医療の体制は、病院完結型から地域完結型へと変化することが予測され、地域包括ケアの充実が叫ばれています。そのため、地域医療連携の更なる強化が求められると思います。

今後地域医療連携室では、窓口を広げ気軽に相談できる顔の見える連携室として努力していきたいと思います。また、患者様が安心して医療・福祉を受けられるように地域の医療機関との連携を密に行い、地域住民の信頼が得られるような地域医療連携室であるために「つなぐ」を信条に役割を担っていきたいと思います。さらに、地域への情報の発信源として役割を担っている事を自覚し、皆様方のご意見を大切にしながら、患者中心の医療・福祉の連携ができる様に努力して参りますのでどうぞ宜しくお願い致します。

健康講座
HEALTH GUIDE
1

最新CT装置「ZOMATOM Definition FLASH」設置

診療放射線科
技師長
小松 義明

この度、18年経過したシングルヘリカルCTに替わり、ドイツシーメンス社製「ゾマトム・デフィニション・フラッシュ」を導入しました。

① 特　徴

2管球2検出器（128スライス×2）のシステムが、0・28秒の高速で回転し、撮影スピードが他のCTの2倍以上の、最速46cm／秒の速度で撮影する事が出来る最新のCT装置です。

また、2管球を駆使して、腎臓結石の組成解析や石灰化の分離等も可能となります。この128スライス・デュアルソースの最新機種は県内初となる装置です。

② CT検査について

一秒間に46cmの最速モードでは、胸部検査でおよそ0・6秒の息止めで済みます。いままでは5秒以上の息止めが必要でした。全身170mの撮影は約4秒で検査が可能となります。

また、なかなか困難であった心臓CT検査が可能となり、心臓カテーテル検査の一部がこのCTでも出来るようになり、患者さんの負担が少なく、QOLが良くなります。心疾患の早期発見、早期予防に大いに活躍する事と思います。

また、将来は準備を整える事で、やさしい大腸検査も可能になるでしょう。

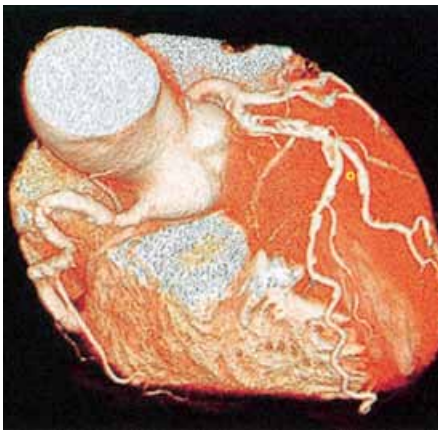
③ 結　び

この装置は「息止めナシ・被ばく最少」の装置です。最速で、被ばく線量の少ないこの装置を大いに活用する事で、患者さんにとってやさしい検査となって行くでしょう。特に高齢者や小児、救急患者にとって非常に有効な検査となります。

今回、新たなワークステーションも加わり、立体画像はもちろん、動く心臓の画像（4DCT）、気管支や大腸等の管腔を内視鏡のように観察する事も出来ます。

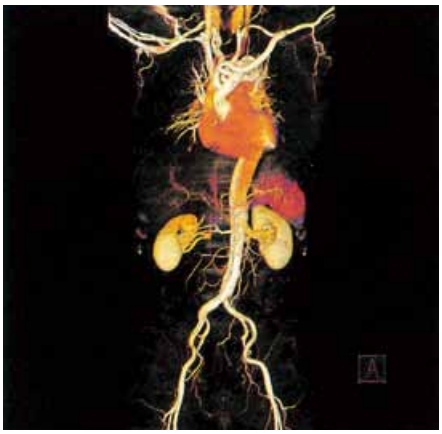
今後は低線量での肺がん検診にも取り組んで行きますので、皆さんの健康維持・健康管理の為にも大いに活用して頂きたいと思います。

新CT装置



心臓造影3D画像

内視鏡モード画像（右下）



心臓大血管造影3D画像

健康講座
HEALTH GUIDE
2

訪問看護をご存知ですか？

由利訪問看護ステーション
管理者
鈴木知栄子

毎日、元気に挨拶をしながら、利用者様のお宅を訪問させていただいている看護師です。平成7年に由利組合総合病院の4階にステーション（事務所）を開設し実施している在宅看護サービスです。

訪問看護とは、病気や障害を持った方が、住み慣れた地域や家庭で、その人らしく療養生活が送れるように、看護師である私たちが御自宅を訪問させていただき、本人や家族の意向を取り入れながら、主治医の指示に基づき、いろいろな看護ケアを提供し在宅生活を支援するサービスです。

訪問看護がどんなことをするのか分からない方が多いと思います。私たちは、病状の観察や主治医への報告・カテーテルやチューブの管理、パウチなどを装着している場合のケア、褥瘡（床ずれ）や傷のガーゼ交換、清潔を保つうえでの清拭や入浴介助・着替えの手伝い、体位変換（体の向きを変える）、人工呼吸器の管理や痰の吸引・口腔清拭、リハビリ、ターミナルケアや在宅での看取りなどの他、介護に関する相談や指導を行っています。

病状や療養生活を見守り、必要時は主治医へ報告しながら看護師としての判断に基づいたケアとアドバイスを行います。夜間の相談にも応じ、必要時は緊急訪問も行い、在宅での療養生活を安心して送ることができるように支援しています。

利用できる対象は、赤ちゃんから高齢の方まで年齢に関係なく利用できます。

訪問看護を利用するには、医師の指示書が必要になります。訪問看護を受けたいことを主治医に相談し訪問看護に連絡をしてもらいます。介護保険を利用の方はケアマネージャーへ、入院中の方は病棟の看護師を通じてお話していただいても大丈夫です。直接ステーションに連絡を取ってもらっても構いません。始めのきっかけはどこでも、訪問看護に連絡が入れば、訪問できるように話を進めていきます。利用希望の連絡がステーションに入り次第、訪問看護師が病室へ今後の在宅生活についての希望を伺いに行きます。介護保険利用の場合は、ケアマネージャーを中心にして担当者会議が開かれ、今後について話し合いが行われます。

在宅で療養中の方には、自宅にお伺いします。

利用する費用は、保険の種類（介護・医療）と、状態によって料金の負担金額が異なります。例えば、介護保険利用で、治療上何らかの管が入っている方が訪問看護を一時間利用する場合、月の初回は1、876円（一時間830円、サービス提供体制加算6円、緊急時訪問看護加算540円、特別管理加算500円）です。二回目からは836円（一時間830円、サービス提供体制加算6円）になります。

地域の方の中には、病状が安定し「家に帰りたい」、「連れて帰りたい」という気持ちがあっても、介護の事を考えると不安に思い諦めている方も多いのではないでしょうか。また、退院時は落ち着いた状態でも、再発や悪化がないように、在宅での生活の指導など、予防という意識で訪問看護を利用する事もできます。在宅での療養生活が不安な方など、どうぞ声をかけてください。

私たち訪問看護師は、利用者・家族の希望に添うことができるように、他職種と連携を取りながら支援させていただいております。訪問看護を利用してみようかなと思って頂けた方は遠慮せずに相談してください。

健康講座
HEALTH GUIDE
3

骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折について

整形外科・
リハビリテーション科
診療部長
菊池 俊彦

はじめに

近年日本では高齢化が急速に進んでおり、秋田県ではその傾向がいっそう顕著です。年をとると骨はだんだん弱くなっていきます。これを骨粗鬆症（こつそしょうしょう）といいます。骨が弱くなるとちょっとしたことで骨折を起こします。骨折しやすい部位として、上腕骨近位部（肩）、前腕骨遠位部（手首）、大腿骨近位部（足の付け根）、脊椎（背骨）の4か所があります。特に、足の付け根と背骨の骨折は重大です。これが起こると歩けなくなってしまうからです。寝たきりにもつながってしまいます。今回はこの「骨粗鬆症性脊椎圧迫骨折」について解説します。

圧迫骨折とは

圧迫骨折は背骨がつぶれる骨折です。高い所から落ちて腰を打つなど、強い力が加われば、健康な骨でも骨折してしまいますが、骨粗鬆症の人はもっと弱い力だけでも骨折を起こしてしまいます。例えば、部屋の中で軽くしりもちをついただけでも骨折することがあります。さらには、何ら原因がなく自然に骨折することも珍しくありません。

症　状

通常、背中から腰にかけての強い痛みが生じます。足にまで痛みが及ぶことはめったにありません。動かないでじっとしていると痛みはないのですが、寝返りや寝起き動作などで痛みを伴い、歩行が困難になります。そのため日常生活がかなり制限されてしまいます。

診　断

一般に骨折はX線で診断されることが多いのですが、この背骨の骨折は、X線でははっきりわからないことが多いのが特徴です。なぜX線で判断がつかないのでしょうか。1つには、骨折してから日が浅いと圧迫の程度自体がごく軽度であるため、X線でもわかりにくいのです。もう1つの理由は、骨が弱くなった人は自然に骨がつぶれることもあるため、X線上の変化が、最近のものか過去のものかはっきりしないためです。

そこで、MRIという検査を行います。この検査を行うと、骨折した骨と正常の骨では色調がはっきり違ってきますので、容易に判断ができます。（図1）

治　療

圧迫骨折は通常3～4週間くらい経過すると自然に骨が固まってきます。それに伴い徐々に痛みは軽減してきます。したがって、初期治療の原則は安静を保つことです。

痛みの程度が軽いときは外来でも治療可能ですが、多くの場合では日常生活が困難になるため、入院を要することになります。入院後は痛みをやわらげる薬を使いながら経過をみますが、早くからリハビリを始めます。なぜかというと、人間は歩くことをしないで寝たままでいると、すぐに足の筋力が弱ってしまうのです。一度弱ってしまった筋肉を元に戻すにはかなり長い期間を要します。そのため、筋肉の力を弱らせないためのリハビリを早くから開始することが重要なのです。2～3週目から、徐々に立つことや歩くことも始めます。家庭での日常生活が大丈夫になれば退院が可能となります。

おわりに

最近は骨粗鬆症の新しい薬が種々開発されており、骨の老化スピードをいくぶん減少させることが可能となってきました。しかしながら完全に不老不死を実現させることは、いまだ夢物語といわざるを得ません。したがって脊椎圧迫骨折がすっかりなくなることは当分先のことでしょう。

ご高齢の方が急な腰痛を訴えたら、早めに病院を受診していただくことをお願い申し上げます。

図1 説明　85歳、女性の腰椎MRI像
○印内が圧迫骨折

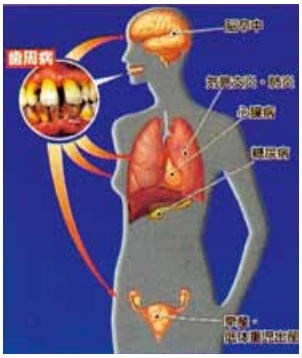
健康講座
HEALTH GUIDE
4

歯周病菌連鎖って知っていますか？

歯科口腔外科
科長
笠井 直栄

歯周病とは、細菌の感染によって、歯肉や歯を支える骨などに炎症が起きる病気で、進行すると歯が抜けてしまいます。日本人の場合、40歳を過ぎるとおよそ8割が歯周病にかかっているとも言われており、いわば国民病の1つとも言えます。これが、単なる口の中のだけの問題ではなく、心臓疾患、糖尿病、呼吸器疾患などきわめて一般的なヒトの全身の病気や体調に関係があることが明らかになって来ました。つまり、歯周病菌が蝕むのは口の中だけではなく、気管や血管から唾液、血液を介して細菌や産生毒素が全身に運ばれ、生命にかかわるような影響を及ぼす事があります。これを歯周病菌連鎖と言います。

歯垢中には1mgあたり1億から10億の細菌がいて、この中の一部が歯周病を起こします。歯肉から出血するなど炎症が起きていると、病巣から歯周病菌が血管に入り込み、全身へと流れ伝わっていきます。こうして歯周病菌は体内のさまざまな部位で連鎖的に炎症を起こし、疾患の原因になったり、悪化させたりするのです。それが〝歯周病菌連鎖〟です。その代表的な例をいくつかあげてみます。



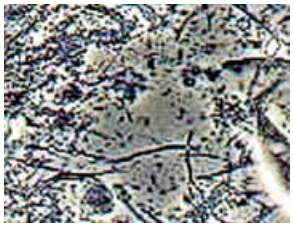
最近よく言われるのは、糖尿病との関係です。

歯周病菌の内毒素は、歯周病病巣からTNFα（腫瘍壊死因子）を産生させます。このTNFαが血液中の糖分を細胞内に取り込むのを阻害し、インスリンの働きを妨げるため、歯周病を合併した糖尿病患者は、血糖コントロールが悪くなりやすいと言われています。つまり、歯周病は糖尿病を悪化させる。実際、歯周病を治療したら、血糖コントロールが改善したという臨床報告もあります。

次は心臓病。特に怖いのは狭心症や心筋梗塞の虚血性心疾患と心内膜炎です。歯周病菌が心臓内膜で増殖すると、細菌性心内膜炎になります。ある種の歯周病菌は血小板凝固因子を持っていて、これが心臓冠動脈血管に作用すると、心筋梗塞の原因になります。

歯周病菌は肺炎の原因となるものも多いです。高齢者や脳障害など免疫力が低下した人が、歯周病菌を含む唾液を誤嚥（ごえん）すると、肺炎にかかる確率が高まります。

歯周病と妊娠。なんの関係も見当たりそうにないですが、健康な赤ちゃんを産むのに、歯周病はとても邪魔な存在であると言えます。早産（低体重児）になってしまう危険性があるのです。もちろん、歯周病菌は悪い菌なので、体内に侵入すると免疫が頑張って戦ってくれます。しかし、この免疫が歯周病菌と戦う時に作り出す物質である〝サイトカイン〟が、妊娠している人にとっては悲しい結果を出してしまう事になるのです。サイトカインは歯周病菌をやっつける為に作られ、歯周病による炎症を抑えようとしてくれる救世主です。血液の中に入り込んだ歯周病菌をやっつける為に、このサイトカインも血液内へ侵入し、血液と共に全身へ廻り、歯周病菌をやっつけようとしてくれます。しかし、妊婦の場合、赤ちゃんの眠っている子宮への刺激を与えてしまい、早産（低体重児）を引き起こしてしまう可能性が出てしまうのです。早産（低体重児）を引き起こす原因も様々ですが、実際に歯周病である人が早産をしてしまった確率は、歯周病でない人に比べて高い事が分かっています。歯周病でない人に比べて約7.5倍も早産をしてしまうリスクが高まるそうです。秋田県では、母子健康手帳の交付時に妊婦歯科健診の受診券を配布しており、公費で一回健診を受ける事ができるようになっていますので、口の中で気になっている事があってもなくても、一度ぜひ歯科健診を受けてください。



では、どうすれば歯周病菌を減らし、歯周病菌連鎖を食い止めることができるのでしょうか。食べたら歯を磨く、洗口液で口腔内を清潔に保つのはもちろんですが、歯周病は喫煙やストレスの影響も大きく、生活習慣を改めることも重要です。喫煙者は、非喫煙者より2倍から3倍も歯周病になりやすいという報告もあり、禁煙は有効です。また歯並びなどの生体因子も関連します。歯垢のたまりやすい親知らずなどは早期に治療すべきです。普段から症状がある虫歯や歯周病の治療をしっかりやっておく事はもちろんですが、これからは治療のほか、予防が大切です。症状がなくても、定期的に歯科医院に行き、検診し、疾病を予防するよう心がけたいものです。歯科医院で、効率的なブラッシングのやり方を習い、磨き残しをなくし、歯周病菌連鎖を食い止めてください。

また、由利組合総合病院では、人間ドックの中に、歯科ドックを組み込んでいます。虫歯、歯周病のほか、口内炎、歯原性の嚢胞（のうほう）、腫瘍など、口の中に起きる疾病に対し、早期発見に努めています。口の中にも、実に様々な病気があります。口腔癌もあります。人間ドックで全身を調べても、口の中を調べないのは、片手落ちです。歯科治療は痛いイメージ、独特のにおい、音などから敬遠されがちですが、これからは、上手に歯科医院と付き合っていくのが良いのではないでしょうか。

燦々と輝く太陽は、
地上のすべてのものに生きる力を与えてくれる

小松技師長、秋田県病院大会で表彰

放射線科の小松技師長が、第24回秋田県病院大会で表彰を受けました。これは、長年にわたって、放射線科技師として仕事に携わり、職務の遂行はもとより、後輩の指導にも尽力された功績に対して贈られたものです。おめでとうございます。

高橋師長、秋田県知事表彰

看護部の高橋師長が、秋田県知事表彰を受けました。これは、長年にわたって、看護業務に携わり、地域住民の医療と健康管理に貢献されたことに対して贈られたものです。おめでとうございます。

編集後記

第四回目となる病院機能評価機構の審査を受けました。第三者からの厳しい目でチェックしてもらうことは、日頃の自己管理の甘さを教えてくれます。指摘されたところは速やかに改善し、質の高い医療をめざしてこれからもがんばっていきます。

また、病院創立80周年の記念式典が盛大に行われました。地域中核病院として、地域の皆さんから厚い信頼をいただき、今日までに至っています。常勤医の減少など問題は山積していますが、信頼を崩さぬように頑張っていく所存です。

［ユリズトーク］　December 2013 Vol.23
企画◈由利組合総合病院広報委員会　発行◈由利組合総合病院　発行責任者◈編集委員長 朝倉　健一
〒015-8511　秋田県由利本荘市川口字家後38　電話 0184-27-1200　印刷◈北星印刷株式会社